

～ | コマ | コマの授業づくりから **単元** をベースとした授業づくりへ～

主体的な学び となる 単元づくり

Step
1

単元目標・ゴールを設定

- ◆指導事項、つきたい力(資質・能力)の明確化
- ◆単元目標・評価規準の設定
- ◆言語活動・単元を貫く問いの設定

⇒ 学ぶ意義・目的が明確になり、必然性が生まれ、自分事になる

Step
2

単元の指導計画をデザイン

- ◆単元の導入の工夫
→好奇心を生む出会い→動機付け ⇒ 必然性・自分事・粘り強さ
- ◆単元の見通しの共有
→単元のゴールの共有→学習計画を立てる ⇒ 自己調整へつなげる
- ◆単元の振り返りの充実

→単元の学習内容、学習方法を客観的に把握(メタ認知) →
→ 自己調整 → 次の学習活動へつなげる

深い学び となる 単元・授業づくり

Point
1

習得・活用・探究のメリハリを 効かせた単元づくり

…基礎・基本の習得を確実にし、獲得した知識・技能を生かして理解や思考を深める活用・探究へとつなげる

Point
2

見方・考え方を働かせる 問いを中心とした思考の場の設定

(問いにせまる発問の例)
「なぜそうなるの？」(因果) 「どんな違いや共通点があるの？」(比較・分類)
「どんなつながりがあるの？」(構造化) 「他にもおなじようなものはあるの？」(転移)

Point
3

多様な考えを交流し、 互いに学び合う対話の場の設定

→考えの交流→他者の視点を取り入れる→自分の考えを比較・修正
→見方・考え方を広げる ⇒ 理解や思考を深める

学習指導と生徒指導の 一体化

指導の個別化 (確実な定着)

特性や進度、学習到達度等に
応じた指導方法等の工夫

学習の個性化 (深め、広げる)

興味・関心・キャリア形成の方向
性等に応じた学習活動・学習課題
の提供

個別最適な学び
協働的な学び

生徒指導 実践上の4つの視点

- 自己決定 の場の提供
- 自己存在感 の感受
- 共感的な人間関係 の育成
- 安全・安心な風土 の醸成

異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す
(互いに高め合い、ねらいをもって深い学びへつなぐ) ための

多様な学習形態・展開

意図的なグループ編成

※ここでの「単元」は「単元や題材などの内容や時間の一定のまとまり」を指します。

計画的な設計

単元づくりの段階で評価を組み込む

- ・単元でつきたい力(資質・能力)・単元目標・評価規準の明確化
- ・評価を後付けにしない(指導計画と評価計画を同時に作成)

単元内で指導改善

「指導に生かす評価」を大切に

- ・学習改善に生かす(学習者の到達状況のチェック・個別支援)
- ・指導改善に生かす(単元計画・授業計画の軌道修正)

学習者との共有

主体的な学びにつながる評価方法

- ・ポートフォリオ・ルーブリック等、学習者自身が自己調整できる
環境の設定(自己・相互評価等)と支援

指導と評価の一体化